



第32回運営推進会議

看護小規模多機能型居宅介護事業所るぴなす

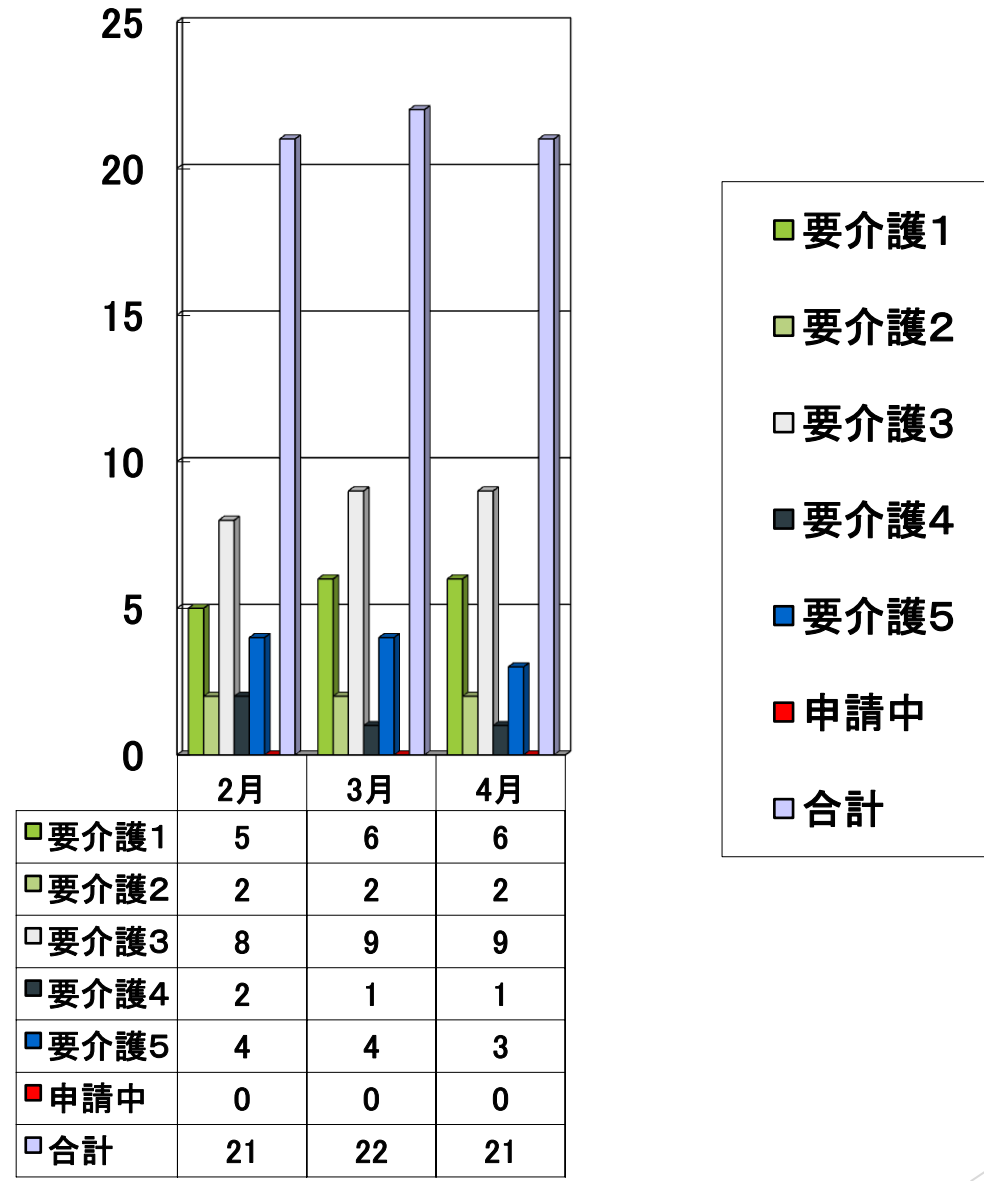
平成30年3月28日

第32回運営推進会議

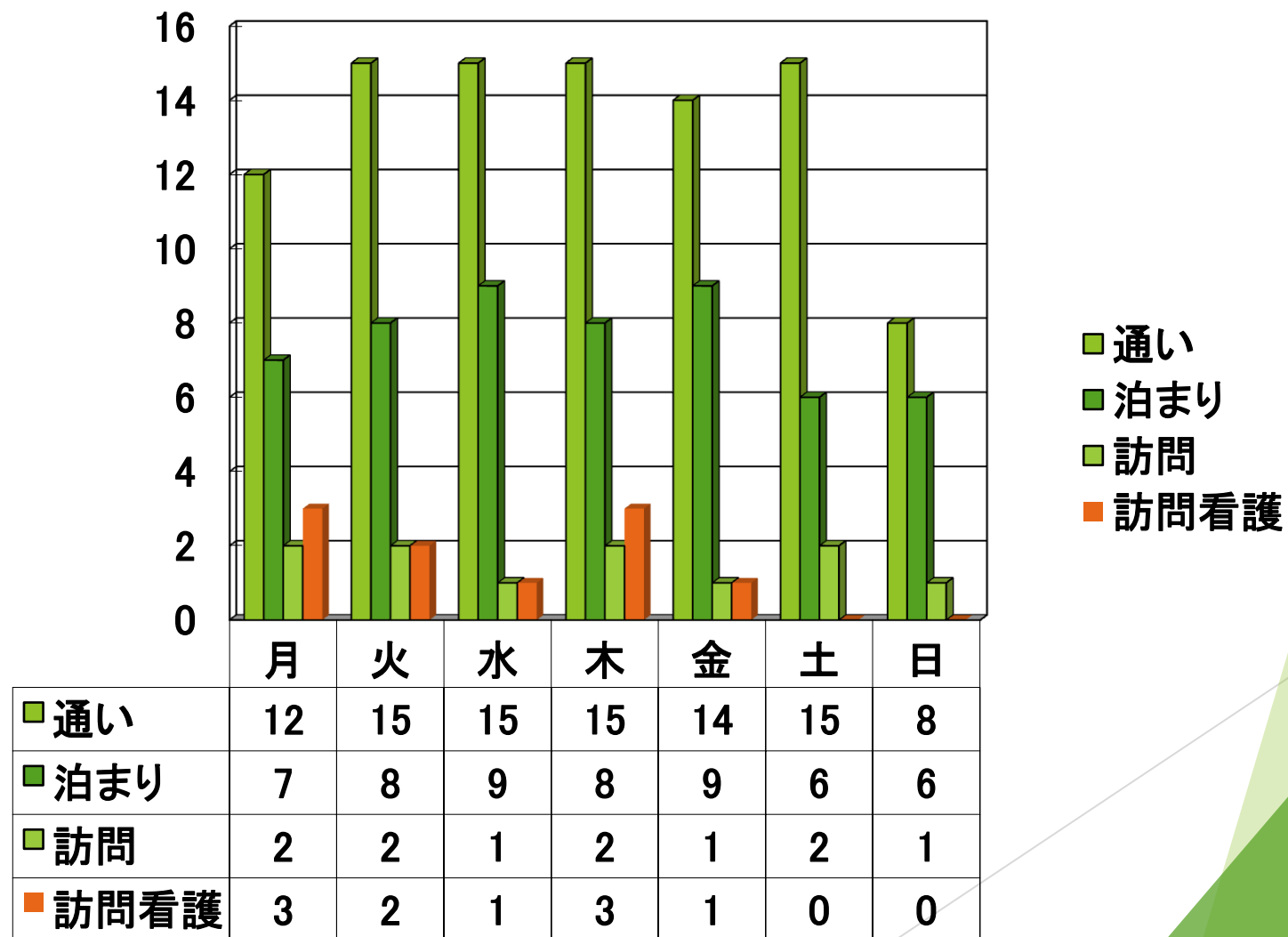
- るぴなすご利用者現況報告
- 新規ご利用者紹介
- 活動報告
- サービス評価
- 平成30年介護報酬改定
- その他質疑応答・要望等

登録利用者数

平成30年2月～平成30年4月



平成30年3月 曜日別利用者数



新規ご利用者

- M・K様 女性 83歳 要介護3 長女と二人暮らし パーキンソン病
2/25利用開始。その時々で体の動き方が変わり、幻覚もあり、一人で自宅にいる事が不安な為、長女様が仕事や用事で不在の時間に利用。
- Y・I様 女性 91歳 要介護3 次女と二人暮らし
腰椎・胸椎圧迫骨折，頸椎捻挫，認知症，腰部脊柱管狭窄症
3/1利用開始。老人保健施設に入所していたが、自宅でも過ごせるよう退所し、次女様が仕事の日泊まり利用し、休みの日に帰宅している。
- N・K様 女性 91歳 要介護1 長女と二人暮らし
高血圧，認知症，右大転子骨折術後
3/21利用開始。幻覚・幻聴があり、長女様一人での対応が大変な為、泊まり利用しながら帰宅する日も設ける。

サービス評価

看護小規模多機能型居宅介護事業所は、運営推進会議をおおむね2月に1回以上開催することと規定されているがサービスの改善および質の向上を目的として、自ら提供するサービスについて評価・点検（自己評価）を行うとともに、自己評価結果について、運営推進会議等において第三者の観点からサービスの評価（外部評価）を1年に1回以上行う。

サービスの質の評価の客観性を高め、サービスに質の改善を図ることを目的とし、結果の公表を行うことが義務付けられており、利用者に対するサービスの提供にあたり、職員に対し、十分意識付けを図ることが求められている。

サービス評価

スタッフ個別評価



事業所自己評価



外部評価



評価の公表

●これまでの取り組みやかかわりを自らに向き 合い、振り返ります。個人作業(11月中旬まで)

●各自が取り組んだ「スタッフ個別評価」を持ち寄り、全体で話し合い、それぞれの考えや実践、項目に関する捉え方の違いなどを話し合い、その中から改善の方策を考えます。事業所のコミュニケーションの場ともなります。(12月上旬～下旬)

●運営推進会議で話し合います。(2月～3月)
「できている」「できていない」という結果のみで判断するだけでなく、事業所が真摯に自らの取り組みを振り返り、質の向上を図っているか確認します。
地域が日頃感じていることと事業者自身が考えることとの違いについて話しあい、事業所の課題や今後の方向を見出します。(3月)

サービス評価のポイント

- ◆スタッフ全員が自らを振り返り、自己評価を行うこと(スタッフ個別評価)
- ◆スタッフ個別評価とともに、事業所全体で振り返り、話し合い、共有すること(事業所自己評価)
- ◆運営推進会議で、事業所自己評価の結果を報告し、かつ、地域からの意見を頂き、運営に反映させること
- ◆自己評価及び運営推進会議による評価を毎年繰り返しながら、質の向上を図っていくこと
 - ⇒ 評価をスタッフ全員で行い話し合うことでチーム作りになり、提供しているサービスの確認になる
 - ⇒ 地域の方々より事業所に対する理解が促進される
 - ⇒ 外部評価を行う運営推進会議に行政や地域包括支援センターが参加することで、理解が促進される

平成30年介護報酬改定

①医療ニーズへの対応の推進

◆看護体制強化加算

看護サービス80%以上、登録喀痰吸引等事業者届出

◆緊急時訪問看護加算

現行540単位/月 ⇒ 改定後574単位/月

②ターミナルケアの充実

本人・家族との十分な話し合いを行い、利用者本人の意思決定を基本にターミナルケアの実施にあたっては、医療、訪問看護との十分な連携を図るよう努めること。

③訪問（介護）サービスの推進

訪問サービスの提供回数が延べ200回/月以上、訪問サービスの提供にあたる常勤従業者を2名以上配置 ⇒ 1000単位/月

平成30年介護報酬改定

④若年性認知症利用者受入加算の創設

若年性認知症利用者受け入れ加算 ⇒ 800単位/月

⑤栄養改善の取組の推進

サービス利用者に対し、6ヶ月ごとに栄養状態について確認を行い当該利用者の栄養情報を介護支援専門員に文書で共有した場合。 ⇒ 5単位/回

⑥中山間地域等に居住する者へのサービス提供の強化

中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算 ⇒ $5/100$ を乗じた単位数
(厚生労働大臣が定める地域)

⑦指定に関する基準の緩和

診療所の参入を認める。利用者専用の宿泊室 1 床を確保したうえで、診療所の病床を届け出ることを可能にする

平成30年介護報酬改定

- ⑧サテライト型事業所の創設
サテライト型看護小規模を創設。
緊急時訪問看護体制加算の届出事業所に限定。サテライト看護師常勤換算1.0以上。
訪問看護体制減算を届出していないこと。
- ⑨運営推進会議の開催方法の緩和
複数の事業所の合同開催を認める
個人情報保護、同一の生活圈域内、1年度に開催すべき運営推進会議の開催数の半数を超えない、
外部評価を行う運営推進会議は単独で行う。
- ⑩事業開始時支援加算の廃止
事業開始時支援加算 ⇒ 現行 500単位/月 ⇒ 改定後 なし

平成30年介護報酬改定

⑪代表者交代時の開設者研修の取扱い

看護師以外の代表者交代時は、半年後又は次回開催の開設者研修のいずれか早い日までに修了すれば良い。

⑫介護職員処遇改善加算の見直し

- ・ 職位、職責、職務内容等に応じた任用要件と賃金体系を整備
- ・ 資質向上のための研修の実施、機会確保
- ・ 経験もしくは資格等に応じ昇給するしくみ又は定期昇給を判定する仕組みを設ける
- ・ 賃金改善以外の職場環境等要件を満たす

第32回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所るぴなす

開催日時：平成30年3月29日(火) 18:00～

出席者：自治会長・目黒様，地域包括センター姥ヶ山・小石様

ご利用者ご家族

法人代表・斎藤先生，法人総務・物江，管理者・小林

1 斎藤先生より

- ・自宅にいる時にもいかに幸せに過ごせるか、小規模多機能は24時間365日切れ目なく、対応できる仕組みになっています。国もこのようなものを進めて行く方針です。
- ・今日はサービス評価の最後、一年のまとめとなります。

2、ご利用者現況報告

○登録利用者数

- ・2月21名、3月22名、4月21名

○曜日別利用者数

- ・それぞれの都合や体調等に合わせご利用して頂いているので、少ない日も多い日もあり、毎週異なる。
- ・今まで訪問サービスを利用し自宅で過ごせていたが、具合が悪くなり毎日泊まり利用されている方がおり、満員になる日が出てきている。

- ・登録は25名まで可能だが、現在このように登録数21～22名で、通いの定員15名、泊まりの定員9名に達している日があり、新規の受け入れが難しい。日々の定員超過は緊急時で一時的なら良いが続いてはいけない。日中でも、ずっと利用されているのでなく出入りがあるので、その時間で15名以下であれば良い。

3、新規ご利用者紹介

- ・3名・・・自宅にいる為に、るぴなすを利用されている。

4、活動報告

○行事，日頃の様子をパワーポイントで写真を見て頂きながら報告

- ・桜が丘小学校3年生・・・「総合」の学習で、来所され、見学，交流されました。お礼のメッセージを頂き掲示しています。
- ・いくとぴあ食花・・・この冬は大雪で、なかなか外出できませんでしたが、ようやく出掛ける事が出来ました。
- ・桜もち作り・・・お餅でなくホットケーキミックスを焼き、あんこやジャムを包みました。できる方には参加して頂き、皆さんで召し上がりました。
- ・ひな祭り・・・ひな人形を飾り、写真を撮りました。
- ・蒲原神社・・・つぼみが多かったですが、梅の花を見に出掛けました。
- ・お誕生会・・・2月のお誕生日

6、サービス評価

- ・サービス評価の概要，流れ，ポイントの説明
- ・今年度の評価結果および改善計画を提示し、意見をいただく。
- ・改善計画は今後具体的に取り組み方法を決め、報告していきます。
- ・これまでサービス評価のご協力、ありがとうございました。評価結果と運営推進会議やご家族からいただいた意見をまとめ、ホームページで公表します。

7、平成30年介護報酬改定

- ・看護小規模多機能の介護報酬改定の説明
- ・4月より自事業所で対象となるのは、緊急時訪問看護加算の単位変更，介護職員処遇改善加算の見直しです。訪問(介護)サービスの推進の部分は体制がとれたら検討します。

8、感想，ご意見等

- ・看護小規模多機能は基本料金は据え置きだが、大規模通所介護など下がったものもある。24時間365日対応できる小規模多機能が必要なので国が残して下げなかったのでしょう。
- ・以前別の小規模多機能を利用していたが合わずにやめた。同じ小規模多機能でも中身は違う。小規模普及セミナーを県の委託でやっている。小規模多機能連絡協議会に入らない所もあり、同じ意識にならない。
- ・24時間365日と言うが介護する人は大変だと思う。
- ・直接的な介護だけでなく、その人はどう暮らしたいか、自宅も、地域も見ていくことが大切。

- ・ 近くの地域の小規模多機能を利用しないといけないと思ったが、利用できて良かった。
るぴなすは中央区だが、東区も近く江南区も範囲なので利用可能。
- ・ 医師の数が少ないと言うより頑張っている医師の数が少ないと思う。
- ・ 診察の時、医師が目を見て優しい言葉をかけてくれたらいいが、こちらを見ずにパソコンに向かっている先生もいる。長く付き合っていてわかってくれるかかりつけ医がいるといい。しかしこれから I C T も進み、ますますそのような事が増えていくのではないかな。



5月15日



5月15日



7月11日

ありがとうございました(*^_^*)



7月18日